



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
2024年9月27日

全教北九州

検索

中教審答申・人事委員会勧告 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

中教審答申では長時間労働は解決しない

連帯の力で中教審答申の具体化をやめさせよう

中央教育審議会（中教審）は、教職員定数の抜本的増員や残業代支給を求める意見や、「このままでは学校がもたない」危機的状況は打開できないという意見を「誤解にもとづくもの」と斥けました。そのうえで「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」を答申しました。

教職調整額増額で給与が改善しても長時間労働は解消しない、むしろ加速する

全教北九州はこれまで全教（全日本教職員組合）とともに、教育予算増と教職員の基礎定数増の実現、そして、時間外勤務手当が支給できるとして、時間外勤務手当が支給できるように給特法を改正し、長時間労働に法的な歯止めをかけることを一体的に進めることでこそ解消できると運動をすすめてきました。

しかし中央教育審議会は、8月27日長時間過密労働を解消したいという私たちの願いに背を向け、「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」の答申を出しました。

その内容は人件費の総額を増やさず、新たな級や学級担任手当の創設は、教職員の共同を破壊し、教職員の差別化と階層化を進めるもので、断じて許すことはできません。また、4%の教職調整額が13%になることは一定の給与改善になり重要です。しかし、増額することによって時間外勤務縮減の効果はまったくなく、長時間労働をさら

に加速させるかねません。

運動を助け、中教審答申の具体化をやめさせよう

来年の通常国会に向け、全教が提起する10月5日の「教育大運動1741」つながるフェスでは「このままでは学校がもたない！」集会への参加や11月27日の全国の職場からのいっせい行動に結集し、世論形成のため、中教審答申に対して声を上げ、私たちの要求への理解を広げましょう。そのためにも保護者だけでなくはじめ多くの人々と共に運動を助け、手をつないでいきましょう。

賃金・労働条件は組合と教育委員会との話し合いで決まります！

給与改定交渉はじまる

9月25日、北九州市人事委員会は例年より10日遅れて「職員の給与に関する報告及び勧告」をおこないました。

昨年は、「1997年以来26年ぶりの高水準の俸給表引上げ改定」でしたが今年はそれをさらに上回

る勧告になっています。ところが、物価高には遠く及ばない2.07%の月例給の引上げ、プラス0.10月の期末・勤勉手当の勧告でした。地域手当は令和7年4月1日実施で4%ですが、経過措置があり直ちに実施するかは不透明です。

教職員の長時間労働の改善についての項目では、教職員の長時間労働の改善は、優秀な人の安定的確保に加え、教職員の健康維持、離職防止の観点から喫緊の課題としています。しかし、令和5年度の在校時間は減少しておらず、勤務環境が改善しているとは言いがたい状況であると述べています。また、学校事務職員を含む教職員の勤務時間や業務量を適切に把握する必要がありますと書いています。さらに、管理職においては、在校時間の上限を遵守するために、業務を持ち帰るなどの事態が発生しないようにするなど、実質的に教職員の負担軽減につながる取組を一層進められたいとしています。

今月から始まる給与改定交渉で、安心して働き・生活できるように、現場の声を背景に人事委員会勧告を具体化し、賃金と労働条件改善のため教育委員会と話し合っています。

北九州の戦争遺跡

小倉造兵廠⑥ (小倉北区)

生産増強と疎開
生産力増強のため1942年、春日市に春日製造所を新設しました。ここでは小銃、機関砲を製造しました。

本土への空襲が始まると工場の疎開が始まります。44年、第二製造所は大分県宇佐郡糸口村（宇佐市）に移転、糸口山製造所となります。45年1月には第一製造所の一部が大分市に移転、大分製造所となります。3月からは第一製造所の多くが大分県速水郡立石町（杵築市）に移転、7月には前月の空襲で被災した大分製造所も立石町に移転しました。45年3月には本部と第二製造所、春日製造所が大分県日田市に移転しました。45年7月に第三製造所の油須原（田川郡赤村）移転が決定しますが、実施前に終戦となりました。

移転後も小倉での製造が継続されましたが、工員数（連合軍の調査への回答による）は約3万5千人（42年）から約1万7千人（45年）と減少しました。

全教共済
うちの共済
地震特約付火災・自然災害共済
火災はもちろん
地震も
自然災害も
ローに補償
賃貸にお住まいの方は
借家人賠償責任特約もオススメ!

毎月15日締切
←Webでお見積

教職調整額あげたつてダメなんよ

8/31 36年目の全国教育署名 北九州スタート集会

教育署名

教育署名は今年で36年目になります。この署名では、児童・生徒の学習権を保障し、個に応じた教育をさらに進めるためにも20人学級を展望した少人数学級拡大と、特別支援学校では1学級6人にするなど等を求めています。

8月31日、全教北九州も参加する「20人学級の実現を求め北九州市実行委員会」は、教育全国署名・北九州のスタート集会を黒崎で開催しました。

この署名では、国に対しては、教育予算の増額、教育無償化の推進等、北九州市に対しては、「20人学級を展望し、小中学校全ての学級で35人学級の実施と正規教員の増員、特別支援学校では1学級6人」を求め11月未まで取り組み、北九州市議会と

国会に提出します。

集会では、学校現場からは、教員が不足していること、全教北九州からは、8月27日の中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」が教職調整額を13%への増額等で教員を確保しようとしていることに対し、教員が望んでいるのは教員を増やすことと少人数学級を実施することであることを報告しました。また、特別支援学校の教員からは、教員不足で重度の子どもの世話が行き届かなくなっている状況が報告され、参加者から「特別支援学校の話が聞けて良かった」と感想をもらいました。

集会後、JR黒崎駅前前で署名活動を行いました。猛暑のため短時間のとりくみとなりましたが、「教職調整額あげたつて駄目なんよ。教員増やさな。」と署名に協力してくれる方もいました。参加者は大変勇気づけられました。

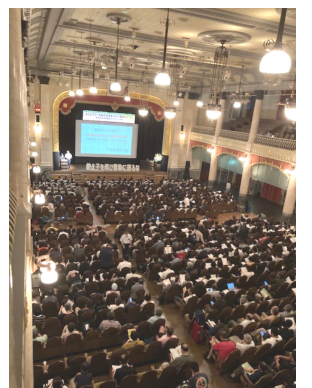


大いに学び楽しんだ3日間

8/16-18 教育研究集会2024in大阪レポート

「みんな21世紀の未来をひらく教育のつどい」教育研究集会2024in大阪が、8月16日から18日、大阪市内で開催されました。

国指定重要文化財である大阪市中央公会堂で行われた全体集会では、オープニングアクトとしてパイオリンとピアノによる「真田丸のテーマ」「パリの火は燃えているか」など3曲が演奏され、平和を守る気持ちが出しつと湧いてきました。その後、「なぜ教育とメディア



「愛国」の危うさを考える」をテーマに、映画「教育と愛国」監督の齊加尚代さん（毎日放送報道情報局ディレクター）の講演がありました。教科書採択をめぐる政治の圧力は、まさに政治ホラー！しかし果敢に報道姿勢を貫く齊加さんの姿に、「黙ることは認めること」と気持ち新たにすることができました。夜は「子どもたちにとつての『well being』」子どもたちの声を受け止める」など5つのテーマで「教育フォーラム」が開催されました。二日目、三日目は18の分科会

教え子を再び戦場へ送らないーゆかたで行動(7/20)

7月20日に恒例の「ゆかたで行動」の活動を黄金町商店街で行いました。

毎年、「私たちは教え子を再び戦場に送りません」と書いてある横断幕を持ち、憲法9条のティッシュを配りながら活動しています。

ティッシュを受け取っていた方から「今年も浴衣で頑張ってるね」「頑張ってるね」

「平和が一番」「ティッシュに書いてある『あなたのいのちを守るのは憲法9条と平和外交』」この言葉通り、本心にそう思うなどの声をいただきました。

微力ですが、私たちはこの活動を続けていきます。懇親会は、近くの居酒屋に行き、楽しくおしゃべりをし、親交を深めました。



が開催され、北九州からも5本のレポートを報告しました。全国の参加者との学び合いは、視野も広がり、9月以降の教育実践や教育運動に活かすことができると感じました。また、朝活夜活で、大阪城公園や道頓堀を散歩するなど、大いに大阪を味わいました